

eyes plus 城山羊の会 「仲直りするために果物を」

5月29日(金)~6月7日(日) シアターウエスト 詳細はP12へ



今年の岸田戯曲賞受賞作家、登場。

人と人の間に静かに亀裂が入っていく様子をシビアに、かつユーモラスに描きせりふ劇の名手・山内ケンジが率いる城山羊の会が、芸劇に2度目の登場。今年の岸田戯曲賞を見事に単独受賞し、本作は受賞後初の書き下ろしとなる。仕事や家庭生活の不満、社内や近所での人との距離感といった問題にセクシーなシーンを絡める展開は、大人にこそ観てほしい。劇団サンプルの作・演出家、松井周が俳優として出演するのも楽しみだ。 文：徳永京子

作・演出：山内ケンジ
出演：石橋けい／松井 周／岡部たかし／岩谷健司／東 加奈子／吉田彩乃／遠藤雄弥

主催：城山羊の会 提携：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

グループ・ばるVol.22 「蜜柑とユウウツ ~茨木のり子異聞~」

6月12日(金)~21日(日) シアターイースト 詳細はP13へ



3人の女優が見せる、女性詩人の凛とした世界

松金よね子、岡本麗、田岡美也子、実力と個性を備えた3人の女優が1986年に旗揚げした演劇ユニット、グループ・ばる。時代と呼応するテーマを発掘し、毎回異なる作家・演出家と組んでリアリティのある「攻めの演劇」を試みる。5年ぶりとなる待望の新作は、脚本にてがみ座の長田育恵、演出にマキノノゾミを招き、客演に木野花、小林隆らが登場。戦後女性詩人のリーダーとして歩み「現代詩の長女」と呼ばれた茨木のり子の世界を、ヴィヴィッドに見せてくれるに違いない。

作：長田育恵(てがみ座) 演出：マキノノゾミ
出演：松金よね子／岡本 麗／田岡美也子／木野 花／小林 隆／野添義弘(SET)／岡田達也(演劇集団キャラメルボックス)
主催：グループ・ばる 提携：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇eyes 木ノ下歌舞伎「三人吉三」

6月14日(日)~21日(日) シアターウエスト 詳細はP14へ



現代を再発見する、歌舞伎の新しいあり方。

京都が拠点の木ノ下歌舞伎は、固定の演出家を置かず、木ノ下裕一が演出に合わせて演出家を選び、自身は監修として、演出家と俳優に作品のエッセンスを注入する。そして上演されるのは「古典の再現」ではなく「現代の再発見」のための歌舞伎だ。『三人吉三』は、木ノ下と最も多く組む杉原邦生が演出。3人のダークヒーローの物語ではなく、その周囲も描き込んで、群像劇という観点から黙阿弥の戯作を照らし出す。 文：徳永京子

作：河竹黙阿弥 監修・補綴：木ノ下裕一 演出・美術：杉原邦生
出演：大村わたる 大橋一輝 堀越 涼／村上誠基 熊川ふみ 藤井咲有里 塚越健一 田中佑弥 森田真和 緑川史絵 大寺亜矢子 森 一生 田中祐気 滝沢めぐみ／武谷公雄
主催：木ノ下歌舞伎 提携：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

2015 COMING UP NEXT 7-8 2015.7-8 演劇・ダンス ラインナップ

「障子の国のティンカーベル」

作：野田秀樹 演出：マルチェロ・マーニ
出演：穂谷友子 パフォーマー：野口卓磨
7月12日(日)~19日(日) / シアターウエスト
一般発売：4月25日(土)

芸劇eyes ベッド&メイキングス 「墓場、女子高生 '15夏」

作・演出：福原充則 出演：富岡晃一郎 ほか
7月16日(木)~19日(日) / シアターイースト
一般発売：後日HPにて発表

オックスフォード大学演劇協会(OUDS) 「Romeo and Juliet」

作：W・シェイクスピア 演出：トーマス・ベイラー
8月19日(水)・20日(木) / シアターウエスト
一般発売：6月27日(土)

「気づかいルーシー」

原作：松尾スズキ(千倉書房「気づかいルーシー」)
脚本・演出：ノゾ工征剛
8月 / シアターイースト
一般発売：6月20日(土)

ホリプロ 「100万回生きたねこ」

原作：佐野洋子
演出・振付・美術：インバル・ピント、アブシャロム・ボラク
出演：成河 深田恭子 ほか
8月15日(土)~30日(日) / プレイハウス
一般発売：4月25日(土)

※2015年3月25日時点の情報です。変更になる場合がございます。最新情報はお問合せ下さい。

世界のマエストロシリーズvol.3 小林研一郎&読売日本交響楽団「復活」

4月24日(金) 19:00開演 コンサートホール 詳細はP10へ



指揮：小林研一郎 ソプラノ：小川里美
メゾ・ソプラノ：クリスティーナ・ダレツカ
管弦楽：読売日本交響楽団
合唱：東京音楽大学合唱団

マーラー / 交響曲第2番 ハ短調「復活」

感動必至の80分、コバケンとマーラーの世界

一人の指揮者によって音楽の本質が引き出され、深遠かつ壮大、そしてドラマティックに変貌してしまうことは、クラシック音楽の世界でよくあること。そうしたパワーを「カリスマ性」と呼ぶ人もいるだろう。このエネルギーをもつマエストロの一人が、親しみを込めて“炎のコバケン”と呼ばれる小林研一郎だ。読売日本交響楽団と東京芸術劇場がタッグを組み、本格派のリスナーからビギナーまで幅広い聴衆に素晴らしい音楽を届ける「世界のマエストロシリーズ」Vol.3となる今回は、パッションに満ちたこの指揮者を迎えてマーラーの大作を取り上げる。

19世紀から20世紀、ヨーロッパのクラシック音楽シーンが大転換期を迎えたこの時代に、突如として現れて個性的な交響曲を発表したのがグスタフ・マーラー。その音楽は宇宙的と呼ばれるほど深みがあり、「一度ハマってしまう

と抜けられなくなった」という聴き手が世界中にいるほど魅力的なのだ。作曲者が20代から30代、およそ7年という歳月をかけて完成させた交響曲第2番「復活」は、「人はどう生き、どのように天へと導かれるのか」という深いテーマを音楽で追求していく感動作。約80分のドラマがオーケストラで、そして2人の歌手と合唱で描かれ、最終楽章では壮大な音楽に包まれながら歓喜のうちに魂が昇っていく。

この世界を、マエストロと読売日本交響楽団、そして充実の声楽陣が創造し、私たちを大きなドラマの中に引き込んでくれる。全身全霊で音楽へ迫る指揮姿は“炎のコバケン”ならではの、「復活」初体験の方にも大きな感動を約束できる一夜なのだ。

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
事業提携：読売日本交響楽団

芸劇&N響ジャズ ~BEBOP BERNSTEIN~

7月10日(金) 18:30開演 コンサートホール 詳細はHPへ



指揮：ジョン・アクセルロッド
クラリネット：大島文子
管弦楽：NHK交響楽団

バーンスタイン / プレリユード、フーガとリフ
ファンシー・フリー
デューク・エリントン / ハーレム組曲
ガーシュウィン / 交響詩「パリのアメリカ人」ほか

[チケット料金]
S席7,500円 / A席6,500円 /
B席5,500円 / C席4,500円 /
SS席9,500円(アフターライブ&ドリンク付)

一般発売：4月7日(火)
SS席ご購入のお客様を対象に、終演後エントランス・ロビーにて「ジョン・アクセルロッド×大島文子によるアフターライブ」を開催。

NHK交響楽団とジャズ、絶妙な組み合わせ

オーケストラとジャズが融合するコンサートはずいぶん多くなってきた。特にクラシック音楽では、アメリカを代表する作曲家の一人、ジョージ・ガーシュウィンの作品が欠かせない。彼の影響を受け、演奏家にもジャンルの壁を楽々と飛び越えて素晴らしい音楽を聞かせてくれる異才が、どんどん増えてきた。指揮者、ピアニスト、作曲家などマルチな才能を發揮したレナード・バーンスタインも、そうした伝説の音楽家。彼のおかげでどれだけのクラシック音楽ファンが壁を乗り越え、ジャズの魅力に気づいたのだろうか。

そのバーンスタインに敬意を表し、東京芸術劇場にNHK交響楽団を迎えて行われるのが、クラシック+ジャズの楽しいコンサート「BEBOP BERNSTEIN」だ。バーンスタインがジャズ・クラリネットの名手ウディ・ハーマンのために作曲した「プレリユード、フーガとリフ」や、ガーシュウィン

の愉快でノスタルジックな管弦楽曲「パリのアメリカ人」など、20世紀のアメリカで生まれた名曲の数々をNHK交響楽団が演奏する。指揮は、そのバーンスタインに師事し、欧米各地のオーケストラやオペラハウスに客演をしているジョン・アクセルロッド。ヒューストン生まれのマエストロもまた、師匠同様にジャズやロックへの理解が深く、今回の企画には最適任者なのだ。さらには、ニューヨークを拠点として幅広い活動を行っている、クラリネット奏者の大島文子がゲストとして登場する。クラシック・ファン、ジャズ・ファン、吹奏楽ファンなど、いろいろな方に楽しんでいただきたい「芸劇&N響ジャズ」。勇気をもって、新しい扉をオープン!

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)